



平成 28 年 6 月

各高等学校
学 校 長 様
英語科主任 様

一般社団法人全国高校英語ディベート連盟 (HEnDA)
理事長 加 納 幹 雄 (岐阜聖徳学園大学教授)

「第11回全国高校生英語ディベート大会」の実施について(ご案内)

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

言語教育の充実、は、今や世界的な課題となっています。日本においても、英語教育に関しては、改善の期待が大きく、平成 21 年 3 月告示の新学習指導要領においては、「思考力・判断力・表現力」の育成が重視され、その根底となる言語教育の充実が一層求められています。英語の授業では「英語を英語で教えることを基本とする」と定められるなど、英語によるコミュニケーション能力の育成強化が重要課題となっております。

その中にあって英語による教育ディベートは、ゲームの中で楽しみ競いながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能を総合的に伸ばせる有効な手段だと考えられ、近年注目される教育関係者が増えております。従いまして、本大会への参加は、日頃の教室での学習の成果を発表し確かめることができ、生徒の学習の大きな動機付けに生かされる可能性も高いと考えています。

平成 18 年 12 月、各地区事務局の先生方にご尽力いただき全国規模での初めての開催となった「第 1 回全国高校生英語ディベート大会」には、17 都県から生徒の参加がありました。おかげさまで昨年度開催の「第 10 回全国高校生英語ディベート大会」では、36 都道府県から 66 校 約 330 名が参加する大きな大会へと成長することができました。高校生達は 2 日間英語を使って議論を深めた達成感や、全国の高校生と交流ができ、大変満足してくれたようです。

なお、大会を通じて英語科の先生方が全国規模のネットワークで結ばれ、スムーズな大会を運営できたことに加え、英語教育についての意見交換などができましたことも本連盟の主たる成果と考えております。

さて、昨年までの大会の盛り上がりをつなげ、本年度も第 11 回大会を開催いたします。下記のとおり関係資料を同封いたしました。本大会の主旨をご理解いただき積極的なご参加を是非とも賜いたくお願い申し上げます。全国各地から参加されるチームの選手や先生方を迎えるにあたり、精一杯の準備・運営を行う所存でございますので、どうぞよろしくお願い致します。

記

- 【目 的】 教育的効果が高い英語ディベートの全国普及を推進するとともに、日本の高校英語教育における英語力向上、さらには地区を越えた教育ネットワークの創出に寄与する。
- 【封入物】 ① 本状
② 「第 11 回全国高校生英語ディベート大会」実施要項 日本語版
③ 「第 11 回全国高校生英語ディベート大会」実施要項 英語版
④ 大会ポスター
⑤ 第 10 回大会結果報告冊子
⑥ 特別協賛・年間協賛団体からのご案内
⑦ 「全国中学生英語ディベート Pre 大会」実施要項
※ その他いくつかご案内資料を封入しております。
- 【その他】 引率者・選手の旅費・宿泊費等は連盟事務局では負担いたしません。
第 10 回大会の DVD については、実費で配付できます。
- 【問合せ】 (一社) 全国高校英語ディベート連盟 (HEnDA)
連盟 HP (<http://henda.global/>) お問い合わせまで



第11回全国高校生英語ディベート大会 in 茨城 実施要項

All Japan High School English Debate Tournament in Ibaraki

1. 主 催 一般社団法人 全国高校英語ディベート連盟 (HENDA)
理事長 加納 幹雄 (岐阜聖徳学園大学教授)
2. 主 管 茨城県高等学校教育研究会英語部
部長 猿田 渉 (茨城県立高萩高等学校長)
3. 特別協賛 GTEC for STUDENTS (株式会社ベネッセコーポレーション)
4. 後 援 文部科学省 アメリカ合衆国大使館 全国英語教育研究団体連合会
公益社団法人全国高等学校文化連盟 茨城県教育委員会 一般社団法人水戸観光協会
日本ディベート協会 特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟 (以上全て申請予定)
5. 年間協賛 神田外語学院・神田外語大学
6. 協 力 学校法人常磐大学
7. 期 日 平成28年(2016年)12月10日(土)～11日(日)
8. 会 場 学校法人常磐大学 常磐大学高等学校 〒310-0036 茨城県水戸市新荘3-2-28
9. 大会運営委員会 茨城県高等学校教育研究会英語部英語ディベート委員会
委員長 植木 明美 (茨城県立竹園高等学校教諭)
10. 審査委員会 一般社団法人 全国高校英語ディベート連盟 (HENDA)
理事・審査委員長 矢野 善郎 (中央大学教授)
11. 参加条件
 - ・日本の高等学校在学者または高等専門学校3年まで、または中等教育学校の4年から6年に在学の生徒で本連盟の「メイク・フレンズ憲章」を厳守できる生徒。
 - ・英語のネイティブスピーカーは不可。
 - ・以下の海外生活経験者等の条件に該当する者はチームに2名以内。
 - (1)英語を第1言語とする国で12ヶ月以上滞在経験のある生徒(就学前の滞在は不問)
 - (2)英語を第2言語とする国の出身である生徒(就学前の滞在は不問)
 - (3)家庭で常用的に英語を使っている生徒
 ただし、該当生徒で各試合に出場できるのは1名以内(試合ごとの変更は可能)。
12. チーム構成 1校1チーム。選手登録は4名から6名まで。
各試合には4名が出場(試合ごとにメンバーの入れ替えが可能)。
※予選各試合のチェアパーソン(司会)は、原則として肯定側チームの所属校の1名が担当(必ずしも登録メンバーである必要はない)。ただし登録選手が4名しかいないチームについては、大会運営委員会がチェアパーソン(地元高校生等)を補充。
13. 帯同ジャッジ

各参加校は、必ず1校1名、資格を満たしたジャッジの派遣が義務づけられる。
(派遣費用は各校負担。ジャッジ資格の詳細については連盟HP (henda.global)等参照。
顧問の兼任は可能) 大会初日12月10日(土)9:00に会場に集合。
14. 対戦方法 予選5試合の結果に基づき、上位8チームが決勝トーナメントへ進む。
予選各試合はジャッジ2名が審査。決勝各試合は、3～5名が審査。

15. 論 題

The Japanese government should adopt a social security system that provides a basic income to all Japanese citizens.
 日本政府は、日本のすべての市民にベーシック・インカムを給付する社会保障制度を採用すべきである。是か非か。

※ 付記事項等、詳細については、連盟 HP を参照。

16. 日 程

12/10 (土)	8:30～	受付	12/11 (日)	7:50～	集合・受付
	10:00～	開会式		8:15～	予選第 5 試合
	11:00～	予選第 1 試合開始 (昼食)		9:50	予選結果発表
	13:00～	予選第 2 試合開始		10:05～	準々決勝
	15:00～	予選第 3 試合開始		11:20～	準決勝
	17:00～	予選第 4 試合開始		12:35～	決勝 (昼食)
	18:00～	交流会 (翌日の連絡を含む)		14:00～	表彰式・閉会式
	20:00	解散予定		15:00	解散予定

17. 競技規則

競技は「大会ルール」「ジャッジ基準」に基づいて行います。
 「大会ルール」「ジャッジ基準」は連盟 HP を参照。

18. 大会参加申し込み

連盟 HP 上にある申し込み様式に必要なデータを入力し、申し込みください。
 応募期間は 10 月 3 日 (月) から 11 月 9 日 (水) まで (必着)。

19. 全国大会選抜基準

出場校の最大総数は原則 64 とする。
 原則として都道府県大会の上位校を選抜する。都道府県大会に参加した学校数に応じて、全国大会出場枠を割り振る。したがって全国大会に出場するためには、原則として都道府県開催の大会に出場していることが条件となる。ただし、連盟の認定するブロック大会の優勝校には出場資格を与える。
 選抜基準の詳細は連盟 HP 参照。

20. 参加費 1 チーム 25,000 円 (本大会の運営費として)

21. 表 彰
- 1 位に優勝旗、文部科学大臣賞 (申請中)、アメリカ合衆国大使館カップ (申請中)
 - 1 位から 3 位までに賞状と賞品 ベスト 8 までに賞状と賞品
 - 最優秀ディベーター 1 名に文部科学大臣賞 (申請中) と賞状と賞品
 - 優秀ディベーター 5 名に賞状と賞品
 - 成績優秀校に対し、国際ディベート大会等への派遣支援を行う (参加費、旅費の一部を支給)
 - 参加者全員に記念品

22. タイムキーパー公募

全国大会出場権を獲得できなかった学校や出場校の非登録メンバーから、タイムキーパーを公募する。
 ただし教員引率があり、本連盟の「メイク・フレンズ憲章」を厳守できる高校に限る (タイムキーパーの旅費、食事代も各校負担)。応募が多い場合は各都道府県大会の上位校から決定する。

■問い合わせ・連絡先

一般社団法人全国高校英語ディベート連盟 (HENDA)
 理事・事務局長 小林 隆徳
 お問い合わせ: 連盟 HP (henda.global) まで
 TEL: 0577-32-2590 (TEL は緊急時のみ)

資料

■試合形式

発言者	役割と内容	時間
A1	① 肯定側立論 (Advantage は 2 点まで出せる)	4 分
	準備時間	1 分
N4→A1	② 否定側質疑 (否定側からの質問に、肯定側 A1 が答える)	2 分
N1	③ 否定側立論 (Disadvantage は 2 点まで出せる)	4 分
	準備時間	1 分
A4→N1	④ 肯定側質疑 (肯定側からの質問に、否定側 N1 が答える)	2 分
	準備時間	2 分
N2	⑤ 否定側アタック (肯定側の立論のみに対して)	3 分
A3→N2	⑥ 否定側アタックへの質問 (肯定側 A3 からの質問に否定側 N2 が答える)	2 分
A2	⑦ 肯定側アタック (否定側の立論のみに対して)	3 分
N3→A2	⑧ 肯定側アタックへの質問 (否定側 N3 からの質問に肯定側 A2 が答える)	2 分
	準備時間	2 分
A3	⑨ 肯定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	3 分
N3	⑩ 否定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	3 分
	準備時間	2 分
A4	⑪ 肯定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	3 分
N4	⑫ 否定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	3 分

計 42 分

■過去の大会の参加状況

大会回	年度	参加都道府県	参加学校数	県予選参加校数	参加選手数	開催場所
プレ大会	2005	11 都県	26 校		160 名	岐阜大学 (岐阜県)
第 1 回	2006	17 都道府県	38 校		208 名	岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 2 回	2007	22 都道府県	50 校		257 名	名古屋学院大学 (愛知県)
第 3 回	2008	24 都道府県	62 校		276 名	岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 4 回	2009	29 都道府県	64 校		295 名	東京国際大学 (埼玉県)
第 5 回	2010	29 都道府県	64 校		321 名	岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 6 回	2011	28 都道府県	64 校	181 校	357 名	金沢学院大学 (石川県)
第 7 回	2012	33 都道府県	64 校	226 校	345 名	千葉県立幕張総合高等学校 (千葉県)
第 8 回	2013	34 都道府県	64 校	242 校	369 名	松本大学 (長野県)
第 9 回	2014	38 都道府県	64 校	283 校	361 名	静岡文化芸術大学 (静岡県)
第 10 回	2015	36 都道府県	66 校	280 校	380 名	岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)

■現在の都道府県大会の開催状況と開催回数 (2015 年 12 月現在) 38 都道府県 実施率 80.8%

北海道	7 回	新潟	3 回	京都	4 回	福岡	14 回
岩手	3 回	富山	5 回	大阪	8 回	佐賀	10 回
山形	2 回	石川	10 回	兵庫	9 回	長崎	10 回
茨城	7 回	福井	8 回	和歌山	4 回	大分	11 回
栃木	8 回	長野	23 回	島根	3 回	熊本	11 回
群馬	4 回	岐阜	14 回	岡山	4 回	宮崎	12 回
埼玉	13 回	静岡	8 回	広島	7 回	鹿児島	18 回
千葉	7 回	愛知	8 回	山口	4 回	沖縄	16 回
東京	19 回	三重	2 回	愛媛	4 回	四国地区大会	6 回
神奈川	7 回	滋賀	8 回	高知	17 回	九州地区大会	11 回

2014 年 38 都道府県 実施率 80.8% 2013 年 37 都道府県 実施率 78.7% 2012 年 32 都道府県 実施率 68.0%